2015年
6月19日
金曜日

「ニューノーマル」の世界を生きる勇気

井口　泰　教授（労働経済学）

皆さんは、「ニューノーマル（new normal）」という言葉が、世界中を飛び交っているのを知っていますか。この言葉は、最近になって中国の習近平主席が「新常態」ということばを使用したことでも、知られています。もともとは、２００８年９月に起きた世界経済危機のあと、世界経済が新たな展開に入ることを期待した経済ジャーナリストが使用したのが始まりです。

２０１５年６月の現在、「ニューノーマル」という用語は、当たり前のこととなっている耐えがたい事態を、維持することに加担せずに、新たな対応に踏み出すという意味で使用されています。

世界経済危機のあと、中国は巨額の公共投資でインフラ整備を推進し、中国内陸部の開発を進めるなかで、アメリカは、金融の量的緩和を進めて、世界に低利のドル資金を供給しました。しかし、多くの新興国で、環境汚染や汚職の蔓延を招き、世界的な資源価格の高騰などでバブル経済が再発しました。先進国のみならず新興国でも、国内の所得や富の格差が拡大しているのです。

経済格差の拡大は、２０１１年に北アフリカで起きた「アラブの春」という各国の政変の背景にもなりました。これら地域では、西側諸国が輸出した武器がテロ集団に渡り、政情は悪化しました。

その結果、地中海をはさみ、ＥＵで債務危機の結果、高い若年失業が続くなか、マグレブでは、宗派や部族間の抗争が激化し、欧米諸国が「テロと戦う」空爆が強化されました。こうして多数の難民が発生し、経済状態の良好なドイツを目指して移動しています。

ＥＵによれば、２０１４年には３４００人近くが地中海で溺死したそうです。ＵＮＨＣＲ（国連難民高等弁務官事務所）によれば、２０１５年前半の難民及び避難民は合計５９５０万人に達し、1年前と比べ１４００万人も増加した模様です。

東南アジアでも、5月中旬から、もともとは、バングラデシュからの移動者であったロヒンギャというイスラム教徒が、ミャンマーの過激な仏教徒と対立し、2万人以上が、ボートピープルとして流出しました。

近年、地球温暖化の傾向のなか耕作地が減少し、飢饉が生じやすくなり、鉱物資源の獲得も、部族間の対立の背景となっています。失業した若者が兵士として戦いに加わるなど、貧困が戦争内戦を引き起こしやすい構造ができているのです。

中国では、内需拡大政策が多くの腐敗を生みました。中国語で「ハエ（小役人の日常汚職）たたき」、「トラ（幹部の蓄財）たたき」など言葉が飛び交っています。少子化で若年労働力の伸びが鈍り、海外からの資本流入が細り、７％の実質経済成長率を維持するのは容易でありません。中国政府は、外国人高度人材の受入れを進める政策を打ち出し、アジア・インフラ投資銀行（AIIB）を自ら設立しました。

本日の聖書の箇所（ルカ16：19―26）で、豊かな若者と貧しいラザロが対照され、自分の生き方に、何の疑問も持たない豊かな若者の姿が描かれています。大学での学びの目的が就職することだけになり、論理的な思考や証拠を重視する議論が行われず、答ありきの思考法が蔓延することを憂慮します。来年から、選挙権が18歳以上の若者に付与されます。皆さんは、これまで「ノーマル」とされてきたことを、しっかり問い直す勇気をもってください。■